

コレクション展

## 鷗外、雑誌をつくる。

2026年7月5日（日）～9月30日（水）開催のお知らせ



医学雑誌から文芸誌まで、鷗外が手掛け言論の拠点となった、全9種の雑誌を紹介します。

文京区立森鷗外記念館では2026年7月5日（日）～9月30日（水）まで、コレクション展「鷗外、雑誌をつくる。」を開催いたします。

日本の雑誌発行は幕末に始まり、明治に入ると政治、経済、風刺、医学、文学と、様々な分野の雑誌が誕生します。当時は志を同じくする者が集ってつくる同人誌が中心でした。

1888（明治21）年9月に留学先のドイツから帰国した鷗外は、翌1889（明治22）年1月、「東京医事新誌」の主筆（論説や編集の責任者）となります。並行して医学者・中濱東一郎と共に「衛生新誌」（同年3月）を、国文学者・落合直文や弟妹らと結成した文学結社・新声社で「しがらみ草紙」（同年10月）を創刊しました。その後も医学雑誌「医事新論」「衛生療病志」「公衆医事」、文芸誌「めさまし草」「芸文」「万年草」を世に送り出します。評論に重きを置き、ドイツで学んだ知識をもって発信しました。時に評論は論争へと発展して注目を集め、欧州文学の翻訳は好評を得ます。また、呉秀三ら医学者、尾崎紅葉、幸田露伴、正岡子規ら文学者が誌面を飾りました。

鷗外の言論の拠点となったこれらの雑誌から、後に陸軍軍医総監となり、文学者としても名を残した鷗外の原点、そして当時の医学界、文学界の一場面を知ることができます。編集の様子が垣間見える書簡や校正紙、原稿、回想などと共に、鷗外がつくった雑誌をご覧ください。

## ■開催概要

展覧会名：コレクション展「鷗外、雑誌をつくる。」

会 期：2026年7月5日（日）～9月30日（水） 計82日間

休 館 日：7月27日（月）・28日（火）、8月24日（月）・25日（火）、9月24日（木）・25日（金）

開館時間：10時～18時（最終入館は閉館30分前まで）

※7月9日（木）は9時より開館、8月1日（土）は20時閉館（最終入館は19時30分）

会 場：文京区立森鷗外記念館 展示室2

観 覧 料：一般300円（中学生以下無料、20名以上の団体：240円）

主 催：文京区立森鷗外記念館



文京区立  
森鷗外記念館  
Mori Ogai Memorial Museum

## 報道関係のお問い合わせ

文京区立森鷗外記念館 広報担当：東聡子  
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4  
☎ 03-3824-5511 FAX：03-3824-0123  
mail：bmk-koho@moriogai-kinenkan.jp

■主な展示資料



①鷗外の主筆・主宰雑誌

上段左から、医学雑誌「東京医事新誌」「衛生新誌」「医事新論」「衛生療病志」「公衆医事」。

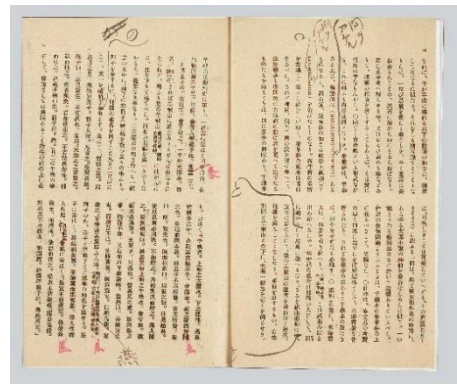
下段左から、文芸誌「しがらみ草紙」「めさまし草」「芸文」「万年草」。



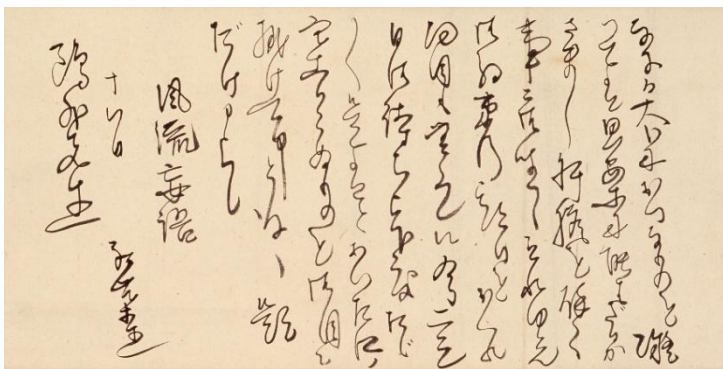
②



③



④



⑤



⑥

- ②鷗外 27 歳頃 1889 年頃撮影 「東京医事新誌」の主筆を務めながら、「衛生新誌」「しがらみ草紙」を創刊した頃の写真。
- ③鷗外自筆原稿『性欲雑説 上』 1902 年頃 鷗外が性科学について医学的にまとめた論説。「公衆医事」に連載の後、『衛生新篇』5 版（1914 年）に収録された。
- ④「万年草」巻 6 校正紙 1903 年 「万年草」は、1902 年 10 月に鷗外が英文学者・上田敏と共に創刊した文芸誌。本資料は合評記事に鷗外が訂正を加えた校正紙で、編集者としての鷗外が垣間見える。
- ⑤尾崎紅葉筆鷗外宛書簡 1896 年 1 月 18 日 「めさまし草」巻之 1 に寄せる原稿の遅れを詫び、先にタイトルだけを知らせた書簡。
- ⑥正岡子規筆鷗外宛葉書 1896 年 2 月 1 日 「めさまし草」巻之 1 を面白く読み、その評を日本新聞社の発行物に掲載することを伝える。

**■ミニ展示ガイド発売**

展示解説、資料キャプションなどを収録したミニ展示ガイドを、開幕日7月5日（日）より館内ショップにて販売します。通信販売にも対応しています。

B5判・12頁 価格：税込300円 発行日：2026年7月5日（日）

**■関連事業**

○講演会「明治期日本の医学雑誌：黎明から展開」

鷗外が関わった医学雑誌を手がかりに、明治期の医学雑誌の展開を概観します。

講師：澤井直氏（順天堂大学准教授）

日時：2026年9月12日（土）14時～15時30分

料金：無料（参加票と本展観覧券（半券可）が必要）

会場：当館2階講座室

定員：50名（事前申込制）

○ギャラリートーク

コレクション展ギャラリートーク

日時：8月12日（水）、9月9日（水）14時～（30分程度）

子ども向けギャラリートーク

当館学芸員と共に鷗外の生涯（常設コーナー）をめぐる。

日時：8月23日（日）13時～（30分程度） 対象：小学校4年生から

※ギャラリートークはいずれも申込不要、高校生以上は展示観覧券が必要です。

**■同時期開催**

○鷗外忌記念展示

7月9日（木）の鷗外命日（鷗外忌）にちなみ、常設コーナーにて鷗外「遺言書」の原資料を展示します。また、鷗外忌当日は9時から開館し、展示を観覧された方にオリジナルしおりをプレゼントします。

「遺言書」展示期間：7月5日（日）～31日（金）の開館日

※コレクション展「鷗外、雑誌をつくる。」と併せて観覧頂けます。



**森鷗外とは**

1862（文久2）～1922（大正11）年。陸軍軍医、小説家、翻訳家、医学博士。本名・森林太郎<sup>りんたろう</sup>。現在の島根県鹿足郡津和野町に、津和野藩主・亀井家の典医を代々務めた森家の長男として生まれる。1872（明治5）年に10歳で上京。東京大学医学部を卒業後、陸軍軍医となる。1884（明治17）年、ドイツ留学。帰国後の1889（明治22）年に共訳詩集『於母影』<sup>おぼかげ</sup>を、翌年に小説『舞姫』を発表し文壇で名声を高めた。1907（明治40）年、陸軍軍医総監、陸軍省医務局長に就任。公務の傍ら、『青年』『雁』『山椒大夫』『高瀬舟』『渋江抽斎』などを執筆した。